

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	20 / 1975 / 63-68
タイトル	野内川上流の野鳥
著者名	梅内伸幸

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

野内川上流の野鳥

二年 梅内伸幸

5月中旬、滝沢、三本木の民家には多くのツバメの巣が見られる。付近の畑にはヒバリが囀りながら空高く舞い上がりヒヨドリもよく見かける。また時には野内海岸から飛んできたと思われるイソヒヨドリの姿もみられる。川沿いに進んでゆくと、川岸の岩の上にはカワカラス、ハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイがいたる所で見られる。カワカラスは時々水中に飛び込む事がある。近よると水底を歩いて啄食している様子を見る事ができる。木の外からその姿を見ると体は長泥に包まれ銀色に輝いている。この鳥の多くは一番尻の領域をもちその中で生活している。

下折紙沢にて石沢氏がサニコラチョウの種を聞いている。下折紙沢より上松崎沢へ至る山道から折上山方面へ登ってゆくと種々の鳥と出会う。時におどろかされるのは大きな体のヤマドリである。藪中に潜みその中に巣を作って棲息している。数年前まではかなりの数だ。たらしいが今はごく少しか棲息しているにすぎない。他にはクロツクミ、ヤマカラ、トラツクミ、ツクミ、ホオジロや、文字通り目の周囲が白いメジロが分布している。なおここでは数年前に村人がヤマセミを捕獲したという記録があり、その個体は滝沢小学校に保存されている。ここよりやや登るとツクミ科では最も普通なアカハラがかなり分布しており8月上旬の繁殖期にはキュロンキュロン……と美しい声で鳴いている。海抜800米付近に達すると稀にコルリの姿も見られるがこの付近では

道かほとんどなくなるし、ユルリは下枝を飛びまわるのでその姿を目にする事は極めて少ない。

下折川沢より少し上流にはカムがありそこには秋期になるとカルカモの姿が見られる。またカルカモは月光の渣付近にも渡来してきているようである。さらに上流平沢ではノスリの姿も見られる。この鳥はトビに似ているが尾かトビに比べて短いのでシルエットを見ると要易に区別できる。早春には渡去しようとしているヒレンジャク、キレンジャクが見られる。彼らはよくヤドリギの実に集まっている。鳴き声はその美しい姿とは異なりヒーヒーとかすかばもののである。カッコウ、ホトトギスはよく美声を聞かせてくれる。カッコウの飛翔は小形のタカ類に似ていてよくハヤブサと間違える。他に森林中にカラッカラッといったような音を耳にする。これはキツツキ科の鳥が嘴で樹幹を打っているのである。多くはギイーギイーとなくコケラであるが、時には黒白、赤と配色顕著なアカケラも見られる。アカケラはキッキョとなき飛翔は波状である。(以下31字抹消)

この付近にはキツツキ科の鳥の巣(樹幹に穴をあけたもの)のあとがあちこちに見られる。尾の長くかわいらしいエナカの姿も稀に見られ、小さな体を小枝にぶらさずチーチージュリジュリとなっている。美声かつぶぶらーなウケイス、ヤブサメも少ないが分布しておりその美声をきかせてくれる。ウケイスの子は否に比べて著しく小さいので他種とまちがえる事がある。平沢の入口から1km程入ったところで私は4%と3回にわたリカワセミの美しい姿に会っている。上面はるり色、頭上後頸は藍黒色でコバルト色の横縞がある小さな鳥である。3度とも低

い小枝に静止していた。おそらく川の中の小魚を捜していたのであろう。今度は近寄、たところ感づかれ、川面を低く飛び去ってしまった。たか1度だけ川の中へ急降下したのを見る事ができた。おそらくこの付近にカワセミの巣があると思われるが確認はできなかつた。美しさではカワセミにおとらはいオオルリの姿も時に見かける。ユルリを大きくし胸に黒いマスクをしたようなこの鳥はよくコルリと同じ科に属すると思われがちであるがオオルリはヒタキ科であり、ユルリはツグミ科である。キャンプをした時明け方にキュロロー、キュロロー、という笛の音のようなものをよくカバハヤ沢付近で聞いた。これはヒスイ科のアカショウロウビンの鳥き声であるがこの鳥は森林深く棲息しているためまだ姿は見えていないが棲息している事はまちがいない。平沢をさらに1km程すすむと美しい橙黄色のキビタキやヒカウモミかける。また枝にカエルなどもつきさしたものは「モズのほやにぶとい。アモズの習性である。

◇

◇

◇

—確認種—

(スズメ科)

・ホオジロ

日本全土に極めて普通の鳥であるが、囀が「筆啓上仕候」と美声。

(ヒバリ科)

・ヒバリ

よくピーチュク、ピーチュクと囀りながら高く舞い上がる。冬期には積雪の少ない温暖地に漂行する。

(メジロ科)

・メジロ

上面一様に暗緑色眼の周囲には白色環。

(セキレイ科)

・ハクセキレイ

冬期では本州各地に極めて普通。顔白色で黒色過眼線が顕著。

・セグロセキレイ

ハクセキレイに似るが頬眼先は黒く白色の眉斑が顕著。

・キセキレイ

♂は夏羽では腮と喉が黒色であるが冬羽ではこの部分白。♀は♂よりも色淡く夏羽においても腮喉は黒くない。

(シジュウカラ科)

・シジュウカラ

全国の平地低山地に極めて普通。

・ヤマガラ

人に馴れ易い鳥でツツビー、ツツビーと鳴く。

・ヒガラ

色彩はシジュウカラと似るがはるかに小。

・エナカ

留鳥として本州各地に広く分布する。

(モズ科)

・モズ

直翅目の昆虫や蛙トカゲ等を樹木の小枝などにつきさし所謂「モズのぼやにえ」を作る習性がある。野外においてはキーキーと地で鳴く他に、他の鳥の真似もする。

(レンジャク科)

・キレンジャク

秋に渡来し越冬する。ヤドリギの果実を好むようである。

・ヒレンジャク

前種との相違点は前種のように白斑や紅色の付属物がない。

(ヒタキ科)

・キヒタキ

夏鳥として渡来する。

・オオルリ

♂は頭上光沢のあるるり色。胸顔は黒。♀は全体褐色。

・カンコウオウ

♂は紫黒色で著しく尾が長く(尾長300mm~360mm)「月火星朧鳥」となく。

・ヨタカ

ハト大。全体褐色の地味な鳥で嘴は扁平で幅が広い。昼間は森林中に棲み夜間活動する。

(ハト科)

・キジバト

全国に広く普通に分布する。

(ウグイス科)

・ウグイス

上面暗緑色で灰白色の眉斑があり、囀は極めて美声。

・ヤブサメ

深い叢林中を低く潜行するため姿を見るのは困難であるがシーシーと虫のような細い声で鳴くのは顕著。

(ツグミ科)

・ツグミ

秋期シベリアより渡来する。

・トラツグミ

ツグミ中最大で褐黄色に黒斑があり美麗。♂は胸以下白色である以外は全体黒色。

・クロツグミ

♀は頭上背暗褐色、下面は白色。

・アカハラ

ツグミ中最も普通。

・イソビヨドリ

♂は一様に美しい暗青色。♀は褐色。

・コルリ

標高800米～1500米の密林中に棲息。

・カワガラス

溪流に沿って棲息し、啄食のため水底を歩く事もある。

(ヒスイ科)

・カワセミ

ツイーとはきり面を直線低空飛行する。小魚をとるのに水中に急降下する。小魚はのみ込み消化できない骨はペリットとして口からはき出す。

・アカショウベン

他のカワセミ類と異なり密林中に棲みカタツムリやサワガニを好んで食べる。

(キツツキ科)

・アカガラ

飛翔は波状であり樹幹を打つのは他のキツツキと同様。

・コガラ

キツツキ中最小かつ最も普通キーキーと特有の声でなく。

(ホトギス科)

・カウコウ

飛翔はハヤブサなどの小形のタカ類に似る。♀はまれに赤色形のものがある。

・ホトギス

♂の「ッペンカケタカ」のはき声は顕著。

(カニカモ科)

・カルカモ

マカモの♀に似るカハ形。

(キジ科)

・ヤマドリ

全体銅褐色で舌は黒より赤るかに大、本州の北緯 $35^{\circ}10'$ 以北に分布するが青森県下にもかぎり棲息している。

(ワシタカ科)

・ノスリ

一見トビに似るが扇状に開いた尾は先端に丸味があるので容易に区別できる。ねずみ、蛙、カナヘビ、ヘビ、鞘翅目の昆虫を捕食。全体暗褐色、尾は叉状。小動物の死体などを啄食。

(ムクドリ科)

・ムクドリ

野外のいたるところでみられる。

(ヒヨドリ科)

・ヒヨドリ

春秋の渡りの時は100羽以上の群となり海洋上を低く波状に飛ぶ。

(カモメ科)

・カモメ

・セグロカモメ

シベリヤ等で繁殖し冬期日本各地に渡来。オホーツク海、ベーリング海沿岸で繁殖し冬期日本に渡来す。

(参考文献)

保育社 原色日本鳥類図鑑